

第9章 感染症・予防接種

感染症

（インフルエンザ）

平成21年春に発生した豚由来の新型インフルエンザ（A/H1N1）は、弱毒性ながらも世界的に流行し、WHOは同年6月21日にフェーズ6を宣言した。

シーズン中の国内の死亡者は198名（死亡率0.15：人口10万対）であった。

岐阜県においては、平成21年第48週に定点あたり42.6人と患者数がピークとなり、平成22年第8週には定点あたり1.0人を下回る状況となった。

（その他）

社会福祉施設や高齢者福祉施設等において、9件（ノロウイルス等）の集団感染の指導、調査等を実施した。

1、2類（結核を除く）感染症の発生届は無く、3類感染症（腸管出血性大腸菌感染症）の発生届は8件であった。

エイズ

患者及び感染者は増加しており、エイズの蔓延は世界的に深刻な問題となっている。平成21年度はエイズ教育促進事業出前講座とし、管内の高等学校等を対象にエイズや性感染症の知識の普及に努めた。

集団かぜ

平成21年度は、豚由来の新型インフルエンザの大流行により、学校（園）・学年・学級閉鎖等の臨時休業の措置をとったところは、延べ1,232校（園）（患者概数7,174人）であり、前年の44校（同1,252人）を大きく上回った。